

# 健診あれこれ

今、仕事で山形に来ています。ホテルの部屋から月山や蔵王の山並が一望でき、出張の楽しみの一つになっています。

2年前、医系技官の懇親会の際に、川口毅先生から全日本労働福祉協会へ

のお誘いを受けたことや、東北支部の子宮がん検診で、臨床から大分離れて知識も技術も錆びついていたので心配になり、同じ医局の西野るり子先生に懇切丁寧に教えていただき、何とか恰好がついたことなどが思い出されません。

協会にお世話になる前は、健康保険組合連合会（健保連）で医療保険制度の改革や健保組合の保健事業などに関わっていました。保健事業は、ユーザーの立場から健診3団体（人間ドック学会、総合健診医学会、全日病）と健診の項目、精度管理、料金、評価など



一般財団法人  
全日本労働福祉協会

椎名 正樹

を議論し、毎年3団体と健保連が契約（包括契約）を交わし、会員組合に情報を提供するという内容です。ちなみに、特定健診・特定保健指導の集合契約（全衛連を含む健診6団体）は、この健保連の包括契約のスキームを利用したものです。現在、攻守所を変えて、健診の現場で仕事をするのも何かの縁と思っています。3年前、取り立ててまともな働きもしなかったのに、総合健診医学会から日野原重明賞（健康予防科学賞）という伝統ある賞をいただき、当惑しつつも感激したものでした。

健保連では、保険者として健診などの保健事業による医療費の削減というテーマに強い関心があるわけですが、東北大学公衆衛生学の辻一郎教授と10数年ぶりにお会いした際に、私が宮城県県に出向して先生がまだ講師のころの話で、新しい研究を始めるにあたって、県の保健所の協力を要請されました。そのとき私が快諾し、研究費の補助までしたことに感謝されました。私自身すっかり忘れていたことですが、この研究が「大崎コホート研究」で、保健師の介入によって医療費が有意に削減されたという輝かしいエビデンスであることに驚いたものでした。このように従来からいろいろな形で

健診に関わってきましたが、最後に、現在お世話になっている協会のスタッフの皆様へ感謝申し上げ、筆を置きます。

## プロフィール



椎名 正樹

### 略歴

昭和45年 慶應義塾大学医学部卒  
52年 学位受領（医学博士、慶應義塾大学）

### 職歴

昭和45年 慶應義塾大学医学部助手  
（産婦人科学教室）  
51年 東京歯科大学市川総合病院講師  
（産婦人科学室）  
55年 助教授  
61年 厚生省健康政策局計画課課長補佐  
63年 静岡県衛生部長  
平成3年 厚生省大臣官房統計情報部衛生統計課長  
5年 宮城県保健環境部長  
7年 国立がんセンター運営部長  
10年 厚生省北海道地方医務局長  
11年 厚生省関東信越地方医務局長  
12年 健康保険組合連合会 参与  
25年 一般財団法人全日本労働福祉協会



# 健康セミナーを開催しました

一般財団法人 全日本労働福祉協会 健康事業部 加来 彩子

## 乳がん・子宮がんとその予防

小山洗足町会のみなさまと、一般社団法人洗足会のご支援、荏原医師会のご後援のもと、当協会の産婦人科医・西野による健康セミナーを平成26年5月22日に実施いたしました。

前半は乳がんの症状や危険因子、乳がん検診の具体的な方法、自己検診について説明があり、後半は子宮がんの種類別による原因や検査について説明がありました。乳がん検診で行うマンモグラフィーと超音波検査のそれぞれの特徴や子宮頸がんと子宮体がんの違いなどを、参加者の方々にとって身近な品川区の婦人科検診の概要や実態についてのお話を交えながら説明いたしました。



今回は講演後、参加者にヘルシー弁当をお配りし、食事を摂っていただきながら講師への質問や疑問、感想などを伺いました。西野より、乳房模型を用いた乳がんの説明があり、実際に乳房模型を参加者に触っていただくことで、触診でわかる場合の乳がんのリスクがある乳房の状態を肌で感じていただきました。

当日の講演終了後にアンケートを実施しました。「検診の大切さをつくづく感じました」「がんは怖いものではないことと、早期発見が大切だと思いました」などの声をいただくことができました。また、「もっと若い女性が集まりやすい所、職場などでの講演のほうがよいように思います」などのご意見もいただきました。

今回のセミナーの開催日時が平日の日中であったことから、なかなか日中仕事を持つ方にとっては参加していただくことが難しい時間帯であったため、今後テーマによっては参加者の年齢層などを考慮したうえで開催日時を設定することが課題であると感じました。

## 職場のメンタルヘルス

四ツ葉油化株式会社様より、企業セミナーのご依頼があり、産業医・川口による健康セミナーを平成26年5月30日に実施いたしました。

今回のセミナーは、四ツ葉油化株式会社様の本社やグループ会社を含む、管理者向けのメンタルヘルスセミナーでした。

メンタルヘルスの定義から、メンタルヘルス不調者に対する対応、過重労働による損害賠償事件の事例、新しいメンタルヘルスへの取り組みなど、順を追っての内容はセミナー参加者の感想でも「参考になった」とご好評をいただきました。



セミナー終了後には、産業医の診察内容により産業医に損害賠償の判定が下ったという事例から、「産業医の判断が、いかに難しいものかと思う」という感想をいただきました。

講演後に実施しましたアンケートの中にも、職場の衛生管理者と産業医、主治医との連携がいかに難しいか実感されているという内容もありました。講演終了後の質疑応答では、管理者の方が日々の業務の中で、メンタルヘルス不調者と関わるうえで感じている疑問や悩みなどについて産業医に質問をいただいたり、参加者のみなさまのそれぞれの部門での体験を交えた意見交換なども活発に行われていました。

健康セミナーは、会員事業場の巡回健康診断をご利用いただいております労働基準協会様からの  
ご依頼や紹介、または健康診断顧客からの直接依頼により、実施しております。

講演会依頼の  
お問い合わせ

「健診結果の見方に関する説明会を実施してほしい」「生活習慣病予防についての話をしてほしい」等、健康に関する講演会の依頼がございましたら、以下までお問い合わせください。

一般財団法人 全日本労働福祉協会 健康事業部 TEL 03-3783-9411 Mail kenkou@zrf.or.jp

## 株式会社ハラチユウ

# 従業員の健康診断と メンタルヘルスケアによる サポートを行っています

### 会社概要

弊社は昭和16年に「株式会社原田铸造所」として創業しました。戦後平和産業であるミシンの生産が盛んになるとともに、弊社では足踏み式ミシンの铸件製本体とベッドの生産を始め、最盛期には国内需要の60%分を生産しました。

昭和40年代に入ると、産業構造自体が大きく変化してミシン産業が衰退していききました。さら本体の材質がダイキャストや樹脂に代わっていく過程でミシン向け铸件が減少しました。それにとつて代わる形で乗用車の生産の増加と共に自動車向け铸件の生産も伸びていきました。

昭和43年には、弊社は設備の近代化により生産能力や生産性を向上させ、エンジンや足回りに用いられる铸铁部品の生産が主体とした工場として変化していききました。

昭和59年に、会社名を現在の「株式会社ハラチユウ」に改称いたしました。現在、自動車メーカーの海外現地生産シフトが進み、新たな産業構造の転換期を迎

えております。客先から海外拠点への供給ニーズに沿うために、昨年にはタイに工場を建設し、創業から73年を経て初めての海外進出を果たしました。

日本はマザー工場としての役割を果たし、タイ工場を全面的にバックアップして最新鋭の工場を操業しています。

### 健康診断および健康管理

定期健康診断は4月に実施し、50歳以上の方は人間ドックと定期健康診断を選択できるようにしています。また、铸件工場ならではの暑熱環境で働いている方や、深夜にかかる交代勤務者は、10月に特定業務従事者健診、有機溶剤使用者は特殊健診を4月と10月に実施しています。

受診後、健康診断・人間ドック結果は必ず産業医に確認していただき、産業医より病院受診の指示があった方には「二次健診の勧め（要治療・要精査・要再検に分けます）」を配布し、病院受診を勧めます。特に要治療、要精査の方に関しては、病院受診が確認できなかった場合には、担当上司に相談し、病院受診を促

### 健康への取り組み

弊社では、昨年より定期健康診断時に、自己負担にて腫瘍マイカーをオプションとして追加できるようにしており、定期健康診断項目だけでは発見できない病気の早期発見を試みております。

弊社では、月に一度「健康相談日」として産業医の先生に何でも相談できる時間を設けております。自分の体調不良の相談や人間ドック、健康診断結果に関する相談など、相談内容はさまざまです。また、看護師資格所有者が常時社内にいるので、常に健康相談に応じることができるとなっています。

また、数年前に「私傷病による休職及び復職に関する規定」を作成し、メンタルヘルス不調者の復帰だけでなく、病気で長期療養を余儀なくされた方の復帰の際にも「職場復帰プラン」を作成し、無理なく職場に復帰できるように、該当者と面談しながら復帰を進めていく取り組みを行っています。

#### 会社概要 株式会社ハラチユウ

住所 山形県山形市立谷川 2-1213-1

URL <http://www.harachu.co.jp>

従業員数 130名

事業内容 自動車向け铸铁部品の製造  
産業車両および建設機械向け  
铸铁部品の製造

名所名跡  
特産品  
の  
紹介コーナー



茨城県

# 世界最大級の青銅製の大仏立像 ギネス認定・牛久大仏

一般財団法人 全日本労働福祉協会  
茨城県支部 野山 義仁



牛久大仏（正式名称、牛久阿彌陀大仏）は、茨城県牛久市にある青銅製大仏立像で、高さは阿彌陀如来の十二の光明にちなんで120mあります。立像の高さは世界で3番目ですが、青銅製立像としては世界最大で、ギネスブックに登録されています。浄土真宗東本願寺派本山東本願寺によって造られました。

牛久大仏は1986年に工事が着工し、1992年に完成しました。当初は寺院の施設ということで、ガイドブック等にもあまり紹介されていませんでしたが、現在では観光スポットとしてテレビや雑誌などに掲載されることも多くなりました。

大仏の胎内は5階に分かれていて、各階ごとに幻想的な世界が演出されています。85mの胸部までエレベーターで上がることができ、四季折々の風景が楽しめます。

大仏の大きさを比較すると、奈良の東大寺の大仏が掌に乗り、ニューヨーク州にある自由の女神像の3倍近くの大きさがあります。園内には小動物公園もあり、リスやウサギなどの動物とふれあうこともできます。近くには、



## ご当地メシで有名な「龍ヶ崎コロッケ」

地場産の米粉やレンコンで作った、新作のクリームコロッケです。商工会女性部が龍ヶ崎の街おこしでコロッケをシンボルにして、イベントなどを始めたのが2002年。市内の飲食店、肉屋さんなどに声をかけて「コロッケクラブ龍ヶ崎」なる組織を結成しました。レパートリーが豊富で、色々なコロッケが食べられる街です。

値段もリーズナブルで、とてもおいしいです。コロッケの街・龍ヶ崎へ、ぜひお立ち寄りください。



阿見アウトレットなどもあり、1日遊べる場所です。お近くに来た際は、ぜひこの大きさを実感してみてください。